

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 7月14日

【評価実施概要】

事業所番号	3470204201		
法人名	医療法人社団 林医院		
事業所名	グループホーム 桐壺の家		
所在地 (電話番号)	広島市西区己斐中2丁目12番21号 (電話) 082-271-8885		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	平成21年7月11日	評価確定日	平成21年7月17日

【情報提供票より】(21年2月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 7 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤 14 人, 非常勤 10 人, 常勤換算	16.8 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / <u>単独</u>	<u>新築</u> / 改築
建物構造	木造	造り
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	日額 1,350 ~ 2,500 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	<u>無</u>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> (<u>無</u> 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(2月28日現在)

利用者人数	27 名	男性 2 名	女性 25 名
要介護1	8 名	要介護2	9 名
要介護3	6 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 79.9 歳	最低 56 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	広島市立舟入病院・石田歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「桐壺の家」は、開所して約5年であるが、開所時から理念のもとで入居者の方々の安心を生み出すための第一歩として、入居者一人ひとりと全職員が「この人ならわかる」そんななじみの関係になることに取り組みられている。多くの職員は20代～30代であるが、運営者の理解と協力のもとで向上心を持って働き続けており、志も高く、また運営者は全職員の意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境づくりにも努められている。入居者一人ひとりの可能性と危険性をチームで見極め、最良の判断となるよう家族ともに考え、苦労をわかちあって進んでいく姿勢も伺えた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では特に改善点はなかったが、その後の取り組みとしては、地域や近隣住民とのつきあいを今以上に積極的にもちながら、入居者の多様なニーズに柔軟に対応することに取り組みされており、入居者の方々といっしょに楽しむことや、機会づくりに力を貸していただく人が増えている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全ての職員で自己評価を実施しており、評価の意義をよく理解している。意見交換も前向きであり、質の向上に積極的である。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、地域との関係を前向きに進めようとする様子や、入居者の日常生活動作の低下に伴い、1対1の対応が必要になった場合やボランティアの活用等が話し合われている。参加者の積極的な発言や提言から、地域との関係を前向きに進めようとする様子が伺える。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時や、入居者一人ひとりに用意してある連絡帳等で、希望や苦情などを聞くようにしており、家族等から得られた意見や苦情等を前向きに受け止め、その発生要因を探り、課題を検討し、質の向上をめざす取り組みをしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所が開催する行事には多くの近隣の人たちが気軽に立ち寄っておられ、また町内運動会や町内清掃活動等には職員が積極的に参加しながら、地元の人々と交流することに努めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	出来るだけ家庭と同じ生活環境を作ることを目指し、地域の中でその人らしい生活ができるように支援をしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営推進会議やミーティング時に繰り返し理念を伝え、確認し合うようにしている。入居者や家族との連携をきめ細かく行って、理念のもとにサービスが提供されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として町内運動会や、清掃等に参加し、挨拶や世間話をするなどして交流を深めている。また、事業所が開催している夏祭りへの行事には、多くの入居者の家族や近隣のひとが参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価で行い、外部評価で気づいた点を確認し、話し合っ改善案の検討や実践につなげている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所からの報告と意見交換がなされ、サービスの質の向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者の介護保険の認定更新や変更の申請の機会を捉えながら、市担当者との関係づくりを継続して取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の便りで、行事や日常生活の様子を詳しく報告しており、健康状態や入居者同士の会話などホーム内の様子をよく知ることができる。健康状態の変化については、その都度連絡をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に話を聴き、家族面談記録に記入している。面会に來れない家族には、電話で様子を伝え意見などを聴いている。出された意見については、運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の意向を重視しながら、職場内で活かせるような環境づくりに留意しながら、また向上心をもって働き続けることへの支援にも取り組まれており、開所時から離職者は殆どなく、なじみの関係づくりが出来ている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員の研修は、普段の生活から学ぶよう現場での体験の中で指導を行ったり、全職員のレベルアップの研修などは、本人の申告により事業所の取り決めの中で、なるべく多くの職員が受講できるようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が主催する研修会などに参加しながら、情報交換や意見交換及び参加者の経験などを参考にしてサービスの水準の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に職員が自宅に出向いたり、短い時間でもホームに遊びに来てもらいながら、本人や家族等の安心と納得につながるようになっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員も家族の一員であるという認識で接しており、知恵を借りたり寄り添って会話に応じるなど支えあう関係作りができています。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	馴染みの関係を活かして、一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めながら、本人の視点に立って支えていく取り組みを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向や、本人をよく知る家族や関係者の気づき、意見、要望を反映した介護計画を作成している。また、チームケアの重要性を充分理解し、実施されている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族と話し合った内容は記録を残し、計画の見直しに活かしている。状態の変化が見られたときには、必要関係者と話し合い現状に即した対応、計画の見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして入居者にとって負担となる受診や入院の回避に努めている。また、本人、家族の状況に応じて通院等を臨機応変に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医での医療を受けられるよう、支援を行っている。また、受診結果に関する情報の共有も図られている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームが対応しうることを見極め、対応の方針を定めており本人や家族の希望に添える終末期をおくることが出来るように、早期から医師や家族とも話し合いを繰り返している。また、日頃から協力医の指導を受け、常に状態の変化に伴う報告や連絡を密にして、職員全員で方針を共有し統一したケアの実践に努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮し、声をかけて居室に出入したり、入居者には尊厳の気持をもって接している。記録の扱いも管理、保管に問題はない。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が自分のペースで過ごせるように職員間で協力し、希望に沿って1日を楽しく過ごせるよう支援している。テレビを楽しんだり、趣味のピアノを弾かれている姿も見られ、柔軟に支援されていることが伺えた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けには、その人が出来ることを自分から自然に加わっている。お茶を運ぶ方や受け取って「ありがとう」とお礼を言う方など微笑ましい光景が見られ、とても和やかで家庭的な雰囲気である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調がよければ、毎日可能なかぎり希望の時間に入浴出来るよう支援が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	近くへの散歩や買物及び地域の行事などに、五感刺激を得られるチャンスとして外出している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望、習慣、体力等その時の状況に応じて、その人なりの外出の楽しみ方を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者と職員は誰もが気軽にホームに立ち寄ってくれることを望んでおり、日中は職員の見守りや連携プレーで鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、定期的に防災訓練を実施している。地域の協力体制については、運営推進会議等を通じて協力を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食、水分量は毎回チェックしている。摂取量が落ちている時には速やかに対応し、医師に相談したり、食事形態等を検討している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員全員で自らの五感を活かしながら、入居者一人ひとりの感覚や価値観を大切にして居心地よく入居者が自分なりの活動がしやすい場になるようにしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火の取り扱い以外原則として、持ち込みは何でも良いこととしているため、入居者それぞれの思いいれのある家具・生活用品・装飾品などを持参し、くつろげる環境となっている。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 桐壺の家 ユニットA

評価年月日 H21年 6月 24日

記入年月日 H21年 6月 24日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 蒲池 陽介

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域密着型サービスの役割を考えながら事業所独自の生活圏の中に郵便局、スーパー等様々な物が存在し、これらとの関係を持ちながら利用者が安心して暮らせるよう取り組んでいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	管理者と職員が理念を共に共感しながら話し合い、実践が理念に基づいたものとなるよう日常的に取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	運営推進会議や施設内行事への家族や地域の人々の参加を促し、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けていけるよう支援している。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	管理者・職員は町内運動会や月に一度の町内清掃等積極的に参加し、馴染みの関係を築き上げており、気軽に立ち寄ってもらえるよう地域の人たちとコミュニケーションを取りながら良い関係を築き上げている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	入居者一人一人が地域とつながりながら、その一員として子供110番等取り入れていって、いつでも対応できるよう地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	職員は勉強会を開き認知症高齢者に対し地域の方々の理解を促し、入居されている方々だけでなく地域で暮らされている方々にも声掛けをし安心していただけるよう努めている。		
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価を形式的な作業に終わらず、職員一人一人が考えた自己評価を活かし理解するよう努めながら一連の過程を通じて質の確保向上につなげ前向きに取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	報告や情報に留まらず話し合いを通じて率直な意見を貰いそれをサービス向上に具体的に生かしていくことで評価や改善への取り組みを行っている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	事業所は運営や現場の実情を積極的に伝える為に入居者の介護保険の手続き・記録・ケア問題等話し合い、情報を共有しながら共に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	職員は成年後見制度の理解に努め、利用者が活用する為の話し合いの場を持ち、必要な方には活用できるよう支援している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者・職員は高齢者虐待防止法について学び、危険をいち早く見つけ速やかに対応できるよう努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に利用者や家族に解約に関しても不安や疑問が生じていないか話し合い、解決できるように理解・納得していただいた上で手続きしている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	苦情や意見の記録を残し、ミーティング等で話し合い、その都度解決に努めている。また、相談・苦情窓口を設けている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族等が知りたいことを考慮しながら毎月の便り・電話連絡等の定期的な報告はもちろん、本人の状況に合わせその都度家族とのコミュニケーションを密にしながら報告を徹底している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族は不満足意見苦情を言い出したいということを理解し、意見を積極的に聞く場面作りに努め、前向きに生かす姿勢や体制を徹底し、運営に生かしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	当理事長林 Dr.・管理者・介護支援専門員・にも参加してもらいスタッフミーティングを月に1度行い、意見交換の場を設け関連施設にも反映させ向上に努めている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	柔軟な対応ができるようローテーションで勤務調整を行っており、実情に応じて時間帯を変更している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>利用者と職員のなじみの関係を重視し移動や離職は最小限に抑え、やむを得ず職員が交代する場合は、利用者への説明や対応、家族への考慮に努めている。</p>		
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員の質の確保、向上に向けた育成や段階的に力をつけていけるような研修の機会に加え、職員が日々の体験を伝え学べるよう定期的に支援している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>サービスの質の向上を目的とした市町村単位の研修会などへの積極的な参加、他の事業所との交流の必要性を認識し日々のサービスや職員育成に役立たせている。</p>		<p>運営推進会議の相互参加等、地域の同業者と交流する機会を持っており、今後はさらにネットワーク作りを行いお互いのサービスの質の向上に取り組んでいきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>管理者が出きるだけ早く対応できるよう日頃の体調変化等に気付き、言い難いことなどの相談窓口を配置し柔軟に取り組んでいる。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>管理者は、職員の努力や成果及び現場で起きている状況の変化を把握し、向上心を持って働く環境作りとなるように努めている。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>本人が利用にあたり気持ちの面で不安がられていることや困っていることをしっかりと聞き受け止め整えている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人はもとより家族の不安を受け止め一つだけが正確でなく一人一人の事情や状況に合わせ柔軟に考えていくように努めている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者と家族の要望にできるだけ対応できるように努め、他のサービス利用を含め必要に応じてできることは速やかに実行している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者一人一人が安心してサービスを利用できるよう、利用開始前に本人はもちろん家族と十分に話し合いながら、安心と納得の上で柔軟に支援している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と本人は介護する、されるといった一方的な関係ではなく一人の人生の先輩として喜怒哀楽を共にする関係作りをしている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員・家族間の情報交換を密に行い、家族からサービス等について要望があった場合はミーティングを行い対応している。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	これまでの本人と家族の関係を考慮した上で、ホームでの暮らしや介護にも家族が関わっていけるよう場面や機会作りを支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>手紙、はがき、電話等使用し、関係が途切れないように支援している。また、家族の協力を得て馴染みの方々の写真等を持参してもらっている。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>利用者同士の関係性について情報連携し、カンファレンスを用いて全ての職員が共有できるようにしている。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>利用者側の事情等で利用が終了した後も、相談窓口を作り関係性を大切にし、その後のケアの問題や介護保険の手続き等支援に応じる姿勢を示している。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</div>				
<p>1 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>職員全員が一人一人の思いや希望・意向について関心を払い把握に努め、困難な場合本人はどうかと言う視点に立って話し合いを持っている。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>本人・家族の協力を得て介護計画等を活用し、生活歴や生活環境、経過等の把握に努めている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>介護計画等をいつでも見やすい所に置いておき、職員全員が入居者一人一人のことを把握できるようにしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画は本人・家族の現状をはっきり把握しながら、本人・家族・計画作成担当者・介護支援専門員を交えミーティングを行い全員で意見交換をして作成している。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画は職員が気がついたことやケアに対してミーティング（モニタリング等）を行い、本人や家族の要望や変化に応じて話し合う機会を設け、現状に即した新たな計画を作成している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の申し送りにて利用者の変化を確認しその都度ドクターに報告し全体で共有している。また、申し送りノートを活用し重要事項は全て記載するようにし、職員全員が把握できるように徹底している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族の状況や要望に応じて宿泊や食事の提供を行っている。また、協力病院への通院支援や必要に応じて同系列の老健や協力病院への転居ができる等の対応をしている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	一人一人の必要性に応じて民生委員、地域の方々やボランティア、警察、消防関係の協力を得ながら支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	本人の希望や体調に応じてお墓参りや理美容サービスを利用してもらったり、ホーム以外のサービスが利用できるように努めている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	本人の必要性に応じ地域包括支援センターと協働している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人もしくは家族の希望する医療機関で受診している。また、医師の訪問診療、24時間受け入れ病院連携（舟入病院）、各医療機関関係者確保（外科・内科・皮膚科・歯科）により、適切な医療が受けられるよう支援している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	受診支援のある医療機関では親切に対応して頂いている（必要な時には往診あり）。また、当理事長林Dr.に相談することで指示、助言を頂いている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	個別の状態を良く知る看護師があり、日常の健康面や医療面について他の職員と情報を共有し対応すると共に、緊急時の対応、薬について等勉強会を開き、協働体制を築いている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	本人のストレスや負担を軽減する為に、家族や医療関係者と相談しながら、スムーズな退院につながるよう退院計画を本人、家族、スタッフで話し合い支援を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>入居時に重度化した場合や終末期のあり方、事業所の対応について話し合い、また、状況の変化のたびに本人・家族・かかりつけ医師・ケア関係者と話し合いを繰り返し支援している。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>利用者が日々をより良く暮らせるように、対応が可能なこと、困難なこと、不安なこと等を職員全員が率直に話し合い、家族や医療関係者等と連携を図りながらチームで支援していけるよう体制を整えている。</p>		<p>本人・家族がより一層良く暮らせるようにチームとして取り組んでいきたい。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>本人が移り住むダメージを最小限にとどめる為に、関係者に対して本人及び家族の状況、習慣、好み、これまでのケアの工夫等の情報交換を行い、継続的に配慮してもらえるように働きかけている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>職員が利用者の誇りを傷つけずプライバシー保護を徹底し、個人情報保護法の理解に努めるよう事業所全体で取り組んでいる。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人の希望や好みを把握しており、意思表示が困難な場合でも表情や全身での反応を注意深く受け止め、本人が決める力やその人らしい希望や願いを意図的に引き出せるよう取り組んでいる。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>事業所の都合や決まり事にこだわらず本人が今日どうしたいのか、それに応じて柔軟に支援している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人の好みや意向を聞き入れ、身だしなみやおしゃれを楽しんでもらえるよう支援している。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	空いている席で利用者と共に食事を楽しむようにし、さり気なくサポートしている。 食後は皿洗い等、後片付けを利用者と一緒に行っている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	自宅と同様に馴染みの嗜好品が楽しめるようにし、他の利用者の迷惑にならないように配慮しながら支援している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者一人一人に合わせた排泄パターン、習慣を活かし出来ない部分はさり気なくカバーできるように支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人や家族から一人一人の習慣や好みを把握し、不安や羞恥心、恐怖心に配慮しながら個別に合った入浴の支援を行っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	これまでの生活習慣等を関係者と検討しながら、本人にとっての自然なリズムに必要な休息や睡眠を取れるよう支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	毎日の暮らしの中で張り合いや喜びを感じていただけるよう、一人一人に合った楽しみ、習慣等の役割を把握しながら支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族と本人にとってのお金の意味を話し合い、管理方法を取り決め小銭を所持してもらったり、買い物に行く時は本人が支払えるよう支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者の状態や本人の習慣・希望やそのときの状態に応じ、一人一人が外出を楽しめるよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	行きたい所を本人や家族から把握しており、馴染みの関係や各種サービスを活かしてふるさと訪問や墓参り等の機会をつくり支援している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	日常の手紙・暑中見舞い・年賀状等を書いていただいており、プライバシーに配慮しながら本人が読み書きしたり、電話を使用することを支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家庭的な雰囲気を大切に、宿泊しやすいようにベッドの貸し出しを行うなど気軽に訪問していただけるように工夫している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>利用者が受ける身体的・精神的障害について全職員が正しく理解しており、必要に応じて専門職の助言を受けながら拘束しないための支援を常日頃から行っている。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>SECOMが入っている為、日中は鍵を掛けなくても良く、また、目の届かない場所でも察知できるようになっている。</p>		
67	<p>利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>職員は昼夜通して全員の様子を常に見守れるように位置し、プライバシーに配慮しながらさりげなく観察できるようにしている。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>利用者の状況に合わせて、注意が必要な物品は何かを職員全員で把握し、管理方法の確認や取り決めを行っている。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>ヒヤリ・ハットを活かし、一人一人の状態から考えられるリスクや危険を検討し事故防止に努めており、事故発生時には再発防止策をその都度話し合い検討している。</p>		
70	<p>急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。</p>	<p>事業所独自のマニュアルに基づき、当理事長Dr、看護職員の指示・指導のもと全ての職員が応急手当に関して定期的に学ぶ機会を設け、緊急時に活かせる技術を身に付けていけるよう取り組んでいる。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>災害時に昼夜を問わず確実な避難誘導ができるように備え、職員、利用者と地域の人々の協力を得て、災害時に話し合いを行い支援の態勢を整えている。</p>		<p>運営推進会議において職員、利用者、地域の方々のみならず、消防職員を交えて災害時に対する協力体制に関する話し合いの場を持っていきたい。</p>
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>普段からの家族との関係作りを基盤にし、一人一人起こり得るリスクに対し話し合い、対応策を率直に話し合うようにしている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	<p>体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>職員が一人一人の体調の変化や異常の早期発見に努め、日常的に早期対応に結びつけることができるように努めている。</p>		
74	<p>服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>職員・看護師を交え薬についてのミーティング・勉強会を行っており、副作用、用法、用量を理解し細心の注意を払っている。また、心身上の変化や課題が見られた場合は速やかにDr. に情報提供を行っている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>	<p>個々の便秘の原因を探り、食事、排泄、活動状態等を見直し、家族とも相談しながら自然排便を促すよう働きかけている。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後の歯磨き、イソジンの使用、義歯洗浄を行い、利用者の自立支援、声掛けを行いながら口腔内の清潔保持に努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	一人一人にあわせて、また、その日の体調に合わせて主食をお粥にしたり、副食を食べやすく刻んだりとろみをつけて工夫をし、管理栄養士を中心に対応している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。(インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	当理事長林Dr.作成のマニュアルをもとに勉強会を行っており実行している。また、感染症の流行や対応策について日常的に情報が得られるよう努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	清潔・衛生の保持を保つための管理方法を取り決めており、場合によってはアルコール殺菌すると共に、食器は常時食洗機を用いて75℃の加熱を行っている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	利用者や家族等、地域の人たちの感想や意見を参考に、玄関周りに草花を季節毎に植え替える等工夫し、訪問しやすいよう心掛けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	五感刺激への配慮のうえで生活感や季節感のあるものを上手く活用しながら、安らぎ居心地良く過ごせるように工夫している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室で休む空間と、フロアで他の入居者と自由に団樂できる空間を設けている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた馴染みの物を置くなど本人や家族と相談しながら、その人らしく居心地良く過ごせるよう配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日全棟の窓を開け換気を行っており、入居者一人一人の状態や反応を見ながら、季節に応じてできるだけ自然環境に近い空調の管理に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	要所に手摺り、階段に滑り止めを設置しており、一人一人の身体機能の状態に合わせての危険防止や、作業療法士の指導をもとにスタッフ同士情報を共有し、自立した生活が行えるよう支援している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室の入り口には目線に合わせて名札をかけ迷わないように配慮し、トイレや浴室等もわかりやすく明示している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	利用者と一緒に外周りの花壇に花を植えたり、草取りをしている。ベランダについても一緒に洗濯物を干したり日光浴をする場として活用している。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 桐壺の家 ユニットB

評価年月日 H21年 6月 24日

記入年月日 H21年 6月 24日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 吉岡 和彦

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域密着型サービスの役割を考えながら事業所独自の生活圏の中に郵便局、スーパー等様々な物が存在し、これらとの関係を持ちながら利用者が安心して暮らせるよう取り組んでいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	管理者と職員が理念を共に共感しながら話し合い、実践が理念に基づいたものとなるよう日常的に取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	運営推進会議や施設内行事への家族や地域の人々の参加を促し、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けていけるよう支援している。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	管理者・職員は町内運動会や月に一度の町内清掃等積極的に参加し、馴染みの関係を築き上げており、気軽に立ち寄ってもらえるよう地域の人たちとコミュニケーションを取りながら良い関係を築き上げている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	入居者一人一人が地域とつながりながら、その一員として子供110番等取り入れていって、いつでも対応できるよう地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	職員は勉強会を開き認知症高齢者に対し地域の方々の理解を促し、入居されている方々だけでなく地域で暮らされている方々にも声掛けをし安心していただけるよう努めている。		
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価を形式的な作業に終わらず、職員一人一人が考えた自己評価を活かし理解するよう努めながら一連の過程を通じて質の確保向上につなげ前向きに取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	報告や情報に留まらず話し合いを通じて率直な意見を貰いそれをサービス向上に具体的に生かしていくことで評価や改善への取り組みを行っている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	事業所は運営や現場の実情を積極的に伝える為に入居者の介護保険の手続き・記録・ケア問題等話し合い、情報を共有しながら共に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	職員は成年後見制度の理解に努め、利用者が活用する為の話し合いの場を持ち、必要な方には活用できるよう支援している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者・職員は高齢者虐待防止法について学び、危険をいち早く見つけ速やかに対応できるよう努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に利用者や家族に解約に関しても不安や疑問が生じていないか話し合い、解決できるように理解・納得していただいた上で手続きしている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	苦情や意見の記録を残し、ミーティング等で話し合い、その都度解決に努めている。また、相談・苦情窓口を設けている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族等が知りたいことを考慮しながら毎月の便り・電話連絡等の定期的な報告はもちろん、本人の状況に合わせその都度家族とのコミュニケーションを密にしながら報告を徹底している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族は不満足意見苦情を言い出したいということを理解し、意見を積極的に聞く場面作りに努め、前向きに生かす姿勢や体制を徹底し、運営に生かしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	当理事長林 Dr.・管理者・介護支援専門員・にも参加してもらいスタッフミーティングを月に1度行い、意見交換の場を設け関連施設にも反映させ向上に努めている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	柔軟な対応ができるようローテーションで勤務調整を行っており、実情に応じて時間帯を変更している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>利用者と職員のなじみの関係を重視し移動や離職は最小限に抑え、やむを得ず職員が交代する場合は、利用者への説明や対応、家族への考慮に努めている。</p>		
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員の質の確保、向上に向けた育成や段階的に力をつけていけるような研修の機会に加え、職員が日々の体験を伝え学べるよう定期的に支援している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>サービスの質の向上を目的とした市町村単位の研修会などへの積極的な参加、他の事業所との交流の必要性を認識し日々のサービスや職員育成に役立たせている。</p>		<p>運営推進会議の相互参加等、地域の同業者と交流する機会を持っており、今後はさらにネットワーク作りを行いお互いのサービスの質の向上に取り組んでいきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>管理者が出きるだけ早く対応できるよう日頃の体調変化等に気付き、言い難いことなどの相談窓口を配置し柔軟に取り組んでいる。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>管理者は、職員の努力や成果及び現場で起きている状況の変化を把握し、向上心を持って働く環境作りとなるように努めている。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>本人が利用にあたり気持ちの面で不安がられていることや困っていることをしっかりと聞き受け止め整えている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人はもとより家族の不安を受け止め一つだけが正確でなく一人一人の事情や状況に合わせ柔軟に考えていくように努めている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者と家族の要望にできるだけ対応できるように努め、他のサービス利用を含め必要に応じてできることは速やかに実行している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者一人一人が安心してサービスを利用できるよう、利用開始前に本人はもちろん家族と十分に話し合いながら、安心と納得の上で柔軟に支援している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と本人は介護する、されるといった一方的な関係ではなく一人の人生の先輩として喜怒哀楽を共にする関係作りをしている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員・家族間の情報交換を密に行い、家族からサービス等について要望があった場合はミーティングを行い対応している。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	これまでの本人と家族の関係を考慮した上で、ホームでの暮らしや介護にも家族が関わっていけるよう場面や機会作りを支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	手紙、はがき、電話等使用し、関係が途切れないように支援している。また、家族の協力を得て馴染みの方々の写真等を持参してもらっている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係性について情報連携し、カンファレンスを用いて全ての職員が共有できるようにしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用者側の事情等で利用が終了した後も、相談窓口を作り関係性を大切にし、その後のケアの問題や介護保険の手続き等支援に応じる姿勢を示している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員全員が一人一人の思いや希望・意向について関心を払い把握に努め、困難な場合本人はどうかと言う視点に立って話し合いを持っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人・家族の協力を得て介護計画等を活用し、生活歴や生活環境、経過等の把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	介護計画等をいつでも見やすい所に置いておき、職員全員が入居者一人一人のことを把握できるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画は本人・家族の現状をはっきり把握しながら、本人・家族・計画作成担当者・介護支援専門員を交えミーティングを行い全員で意見交換をして作成している。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画は職員が気がついたことやケアに対してミーティング（モニタリング等）を行い、本人や家族の要望や変化に応じて話し合う機会を設け、現状に即した新たな計画を作成している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の申し送りにて利用者の変化を確認しその都度ドクターに報告し全体で共有している。また、申し送りノートを活用し重要事項は全て記載するようにし、職員全員が把握できるように徹底している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族の状況や要望に応じて宿泊や食事の提供を行っている。また、協力病院への通院支援や必要に応じて同系列の老健や協力病院への転居ができる等の対応をしている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	一人一人の必要性に応じて民生委員、地域の方々やボランティア、警察、消防関係の協力を得ながら支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	本人の希望や体調に応じてお墓参りや理美容サービスを利用してもらったり、ホーム以外のサービスが利用できるように努めている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	本人の必要性に応じ地域包括支援センターと協働している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人もしくは家族の希望する医療機関で受診している。また、医師の訪問診療、24時間受け入れ病院連携（舟入病院）、各医療機関関係者確保（外科・内科・皮膚科・歯科）により、適切な医療が受けられるよう支援している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	受診支援のある医療機関では親切に対応して頂いている（必要な時には往診あり）。また、当理事長林Dr.に相談することで指示、助言を頂いている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	個別の状態を良く知る看護師がおり、日常の健康面や医療面について他の職員と情報を共有し対応すると共に、緊急時の対応、薬について等勉強会を開き、協働体制を築いている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	本人のストレスや負担を軽減する為に、家族や医療関係者と相談しながら、スムーズな退院につながるよう退院計画を本人、家族、スタッフで話し合い支援を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>入居時に重度化した場合や終末期のあり方、事業所の対応について話し合い、また、状況の変化のたびに本人・家族・かかりつけ医師・ケア関係者と話し合いを繰り返し支援している。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>利用者が日々をより良く暮らせるように、対応が可能なこと、困難なこと、不安なこと等を職員全員が率直に話し合い、家族や医療関係者等と連携を図りながらチームで支援していけるよう体制を整えている。</p>		<p>本人・家族がより一層良く暮らせるようにチームとして取り組んでいきたい。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>本人が移り住むダメージを最小限にとどめる為に、関係者に対して本人及び家族の状況、習慣、好み、これまでのケアの工夫等の情報交換を行い、継続的に配慮してもらえるように働きかけている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>職員が利用者の誇りを傷つけずプライバシー保護を徹底し、個人情報保護法の理解に努めるよう事業所全体で取り組んでいる。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人の希望や好みを把握しており、意思表示が困難な場合でも表情や全身での反応を注意深く受け止め、本人が決める力やその人らしい希望や願いを意図的に引き出せるよう取り組んでいる。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>事業所の都合や決まり事にこだわらず本人が今日どうしたいのか、それに応じて柔軟に支援している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人の好みや意向を聞き入れ、身だしなみやおしゃれを楽しんでもらえるよう支援している。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	空いている席で利用者と共に食事を楽しむようにし、さり気なくサポートしている。 食後は皿洗い等、後片付けを利用者と一緒に行っている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	自宅と同様に馴染みの嗜好品が楽しめるようにし、他の利用者の迷惑にならないように配慮しながら支援している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者一人一人に合わせた排泄パターン、習慣を活かし出来ない部分はさり気なくカバーできるように支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人や家族から一人一人の習慣や好みを把握し、不安や羞恥心、恐怖心に配慮しながら個別に合った入浴の支援を行っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	これまでの生活習慣等を関係者と検討しながら、本人にとっての自然なリズムに必要な休息や睡眠を取れるよう支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	毎日の暮らしの中で張り合いや喜びを感じていただけるよう、一人一人に合った楽しみ、習慣等の役割を把握しながら支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族と本人にとってのお金の意味を話し合い、管理方法を取り決め小銭を所持してもらったり、買い物に行く時は本人が支払えるよう支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者の状態や本人の習慣・希望やそのときの状態に応じ、一人一人が外出を楽しめるよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	行きたい所を本人や家族から把握しており、馴染みの関係や各種サービスを活かしてふるさと訪問や墓参り等の機会をつくり支援している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	日常の手紙・暑中見舞い・年賀状等を書いていただいており、プライバシーに配慮しながら本人が読み書きしたり、電話を使用することを支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家庭的な雰囲気を大切にし、宿泊しやすいようにベッドの貸し出しを行うなど気軽に訪問していただけるように工夫している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者が受ける身体的・精神的障害について全職員が正しく理解しており、必要に応じて専門職の助言を受けながら拘束しないための支援を常日頃から行っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	SECOMが入っている為、日中は鍵を掛けなくても良く、また、目の届かない場所でも察知できるようになっている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は昼夜通して全員の様子を常に見守れるように位置し、プライバシーに配慮しながらさりげなく観察できるようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状況に合わせて、注意が必要な物品は何かを職員全員で把握し、管理方法の確認や取り決めを行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリ・ハットを活かし、一人一人の状態から考えられるリスクや危険を検討し事故防止に努めており、事故発生時には再発防止策をその都度話し合い検討している。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	事業所独自のマニュアルに基づき、当理事長Dr、看護職員の指示・指導のもと全ての職員が応急手当に関して定期的に学ぶ機会を設け、緊急時に活かせる技術を身に付けていけるよう取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害時に昼夜を問わず確実な避難誘導が出来るように備え、職員、利用者と地域の人々の協力を得て、災害時に話し合いを行い支援の態勢を整えている。		運営推進会議において職員、利用者、地域の方々のみならず、消防職員を交えて災害時に対する協力体制に関する話し合いの場を持っていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	普段からの家族との関係作りを基盤にし、一人一人起こり得るリスクに対し話し合い、対応策を率直に話し合うようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	職員が一人一人の体調の変化や異常の早期発見に努め、日常的に早期対応に結びつけることができるように努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員・看護師を交え薬についてのミーティング・勉強会を行っており、副作用、用法、用量を理解し細心の注意を払っている。また、心身上の変化や課題が見られた場合は速やかにDr. に情報提供を行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	個々の便秘の原因を探り、食事、排泄、活動状態等を見直し、家族とも相談しながら自然排便を促すよう働きかけている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の歯磨き、イソジンの使用、義歯洗浄を行い、利用者の自立支援、声掛けを行いながら口腔内の清潔保持に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できる よう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	一人一人にあわせて、また、その日の体調に合わせて主 食をお粥にしたり、副食を食べやすく刻んだりとろみをつ けて工夫をし、管理栄養士を中心に対応している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	当理事長林Dr.作成のマニュアルをもとに勉強会を行 っており実行している。また、感染症の流行や対応策に ついて日常的に情報が得られるよう努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の 衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	清潔・衛生の保持を保つための管理方法を取り決めてお り、場合によってはアルコール殺菌すると共に、食器は 常時食洗機を用いて75℃の加熱を行っている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出 入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	利用者や家族等、地域の人たちの感想や意見を参考に、 玄関周りに草花を季節毎に植え替える等工夫し、訪問し やすいよう心掛けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等) は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や 季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	五感刺激への配慮のうえで生活感や季節感のあるものを 上手く活用しながら、安らぎ居心地良く過ごせるように 工夫している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室で休む空間と、フロアで他の入居者と自由に団楽できる空間を設けている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた馴染みの物を置くなど本人や家族と相談しながら、その人らしく居心地良く過ごせるよう配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日全棟の窓を開け換気を行っており、入居者一人一人の状態や反応を見ながら、季節に応じてできるだけ自然環境に近い空調の管理に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	要所に手摺り、階段に滑り止めを設置しており、一人一人の身体機能の状態に合わせての危険防止や、作業療法士の指導をもとにスタッフ同士情報を共有し、自立した生活が行えるよう支援している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室の入り口には目線に合わせて名札をかけ迷わないように配慮し、トイレや浴室等もわかりやすく明示している。		
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	利用者と一緒に外周リの花壇に花を植えたり、草取りをしている。ベランダについても一緒に洗濯物を干したり日光浴をする場として活用している。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 桐壺の家 ユニットC

評価年月日 H21年 6月 24日

記入年月日 H21年 6月 24日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 萩原 隆行

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域密着型サービスの役割を考えながら事業所独自の生活圏の中に郵便局、スーパー等様々な物が存在し、これらとの関係を持ちながら利用者が安心して暮らせるよう取り組んでいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	管理者と職員が理念を共に共感しながら話し合い、実践が理念に基づいたものとなるよう日常的に取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	運営推進会議や施設内行事への家族や地域の人々の参加を促し、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けていけるよう支援している。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	管理者・職員は町内運動会や月に一度の町内清掃等積極的に参加し、馴染みの関係を築き上げており、気軽に立ち寄ってもらえるよう地域の人たちとコミュニケーションを取りながら良い関係を築き上げている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	入居者一人一人が地域とつながりながら、その一員として子供110番等取り入れていって、いつでも対応できるよう地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	職員は勉強会を開き認知症高齢者に対し地域の方々の理解を促し、入居されている方々だけでなく地域で暮らされている方々にも声掛けをし安心していただけるよう努めている。		
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価を形式的な作業に終わらず、職員一人一人が考えた自己評価を活かし理解するよう努めながら一連の過程を通じて質の確保向上につなげ前向きに取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	報告や情報に留まらず話し合いを通じて率直な意見を貰いそれをサービス向上に具体的に生かしていくことで評価や改善への取り組みを行っている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	事業所は運営や現場の実情を積極的に伝える為に入居者の介護保険の手続き・記録・ケア問題等話し合い、情報を共有しながら共に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	職員は成年後見制度の理解に努め、利用者が活用する為の話し合いの場を持ち、必要な方には活用できるよう支援している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者・職員は高齢者虐待防止法について学び、危険をいち早く見つけ速やかに対応できるよう努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に利用者や家族に解約に関しても不安や疑問が生じていないか話し合い、解決できるように理解・納得していただいた上で手続きしている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	苦情や意見の記録を残し、ミーティング等で話し合い、その都度解決に努めている。また、相談・苦情窓口を設けている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族等が知りたいことを考慮しながら毎月の便り・電話連絡等の定期的な報告はもちろん、本人の状況に合わせその都度家族とのコミュニケーションを密にしながら報告を徹底している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族は不満足意見苦情を言い出したいということを理解し、意見を積極的に聞く場面作りに努め、前向きに生かす姿勢や体制を徹底し、運営に生かしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	当理事長林 Dr.・管理者・介護支援専門員・にも参加してもらいスタッフミーティングを月に1度行い、意見交換の場を設け関連施設にも反映させ向上に努めている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	柔軟な対応ができるようローテーションで勤務調整を行っており、実情に応じて時間帯を変更している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>利用者と職員のなじみの関係を重視し移動や離職は最小限に抑え、やむを得ず職員が交代する場合は、利用者への説明や対応、家族への考慮に努めている。</p>		
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員の質の確保、向上に向けた育成や段階的に力をつけていけるような研修の機会に加え、職員が日々の体験を伝え学べるよう定期的に支援している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>サービスの質の向上を目的とした市町村単位の研修会などへの積極的な参加、他の事業所との交流の必要性を認識し日々のサービスや職員育成に役立たせている。</p>		<p>運営推進会議の相互参加等、地域の同業者と交流する機会を持っており、今後はさらにネットワーク作りを行いお互いのサービスの質の向上に取り組んでいきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>管理者が出きるだけ早く対応できるよう日頃の体調変化等に気付き、言い難いことなどの相談窓口を配置し柔軟に取り組んでいる。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>管理者は、職員の努力や成果及び現場で起きている状況の変化を把握し、向上心を持って働く環境作りとなるように努めている。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>本人が利用にあたり気持ちの面で不安がられていることや困っていることをしっかりと聞き受け止め整えている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人はもとより家族の不安を受け止め一つだけが正確でなく一人一人の事情や状況に合わせ柔軟に考えていくように努めている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者と家族の要望にできるだけ対応できるように努め、他のサービス利用を含め必要に応じてできることは速やかに実行している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者一人一人が安心してサービスを利用できるよう、利用開始前に本人はもちろん家族と十分に話し合いながら、安心と納得の上で柔軟に支援している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と本人は介護する、されるといった一方的な関係ではなく一人の人生の先輩として喜怒哀楽を共にする関係作りをしている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員・家族間の情報交換を密に行い、家族からサービス等について要望があった場合はミーティングを行い対応している。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	これまでの本人と家族の関係を考慮した上で、ホームでの暮らしや介護にも家族が関わっていけるよう場面や機会作りを支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	手紙、はがき、電話等使用し、関係が途切れないように支援している。また、家族の協力を得て馴染みの方々の写真等を持参してもらっている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係性について情報連携し、カンファレンスを用いて全ての職員が共有できるようにしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用者側の事情等で利用が終了した後も、相談窓口を作り関係性を大切にし、その後のケアの問題や介護保険の手続き等支援に応じる姿勢を示している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員全員が一人一人の思いや希望・意向について関心を払い把握に努め、困難な場合本人はどうかと言う視点に立って話し合いを持っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人・家族の協力を得て介護計画等を活用し、生活歴や生活環境、経過等の把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	介護計画等をいつでも見やすい所に置いておき、職員全員が入居者一人一人のことを把握できるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画は本人・家族の現状をはっきり把握しながら、本人・家族・計画作成担当者・介護支援専門員を交えミーティングを行い全員で意見交換をして作成している。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画は職員が気がついたことやケアに対してミーティング（モニタリング等）を行い、本人や家族の要望や変化に応じて話し合う機会を設け、現状に即した新たな計画を作成している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の申し送りにて利用者の変化を確認しその都度ドクターに報告し全体で共有している。また、申し送りノートを活用し重要事項は全て記載するようにし、職員全員が把握できるように徹底している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族の状況や要望に応じて宿泊や食事の提供を行っている。また、協力病院への通院支援や必要に応じて同系列の老健や協力病院への転居ができる等の対応をしている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	一人一人の必要性に応じて民生委員、地域の方々やボランティア、警察、消防関係の協力を得ながら支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	本人の希望や体調に応じてお墓参りや理美容サービスを利用してもらったり、ホーム以外のサービスが利用できるように努めている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	本人の必要性に応じ地域包括支援センターと協働している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人もしくは家族の希望する医療機関で受診している。また、医師の訪問診療、24時間受け入れ病院連携（舟入病院）、各医療機関関係者確保（外科・内科・皮膚科・歯科）により、適切な医療が受けられるよう支援している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	受診支援のある医療機関では親切に対応して頂いている（必要な時には往診あり）。また、当理事長林Dr.に相談することで指示、助言を頂いている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	個別の状態を良く知る看護師がおり、日常の健康面や医療面について他の職員と情報を共有し対応すると共に、緊急時の対応、薬について等勉強会を開き、協働体制を築いている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	本人のストレスや負担を軽減する為に、家族や医療関係者と相談しながら、スムーズな退院につながるよう退院計画を本人、家族、スタッフで話し合い支援を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>入居時に重度化した場合や終末期のあり方、事業所の対応について話し合い、また、状況の変化のたびに本人・家族・かかりつけ医師・ケア関係者と話し合いを繰り返し支援している。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>利用者が日々をより良く暮らせるように、対応が可能なこと、困難なこと、不安なこと等を職員全員が率直に話し合い、家族や医療関係者等と連携を図りながらチームで支援していけるよう体制を整えている。</p>		<p>本人・家族がより一層良く暮らせるようにチームとして取り組んでいきたい。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>本人が移り住むダメージを最小限にとどめる為に、関係者に対して本人及び家族の状況、習慣、好み、これまでのケアの工夫等の情報交換を行い、継続的に配慮してもらえるように働きかけている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>職員が利用者の誇りを傷つけずプライバシー保護を徹底し、個人情報保護法の理解に努めるよう事業所全体で取り組んでいる。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人の希望や好みを把握しており、意思表示が困難な場合でも表情や全身での反応を注意深く受け止め、本人が決める力やその人らしい希望や願いを意図的に引き出せるよう取り組んでいる。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>事業所の都合や決まり事にこだわらず本人が今日どうしたいのか、それに応じて柔軟に支援している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人の好みや意向を聞き入れ、身だしなみやおしゃれを楽しんでもらえるよう支援している。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	空いている席で利用者と共に食事を楽しむようにし、さり気なくサポートしている。 食後は皿洗い等、後片付けを利用者と一緒に行っている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	自宅と同様に馴染みの嗜好品が楽しめるようにし、他の利用者の迷惑にならないように配慮しながら支援している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者一人一人に合わせた排泄パターン、習慣を活かし出来ない部分はさり気なくカバーできるように支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人や家族から一人一人の習慣や好みを把握し、不安や羞恥心、恐怖心に配慮しながら個別に合った入浴の支援を行っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	これまでの生活習慣等を関係者と検討しながら、本人にとっての自然なリズムで必要な休息や睡眠を取れるよう支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	毎日の暮らしの中で張り合いや喜びを感じていただけるよう、一人一人に合った楽しみ、習慣等の役割を把握しながら支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族と本人にとってのお金の意味を話し合い、管理方法を取り決め小銭を所持してもらったり、買い物に行く時は本人が支払えるよう支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者の状態や本人の習慣・希望やそのときの状態に応じ、一人一人が外出を楽しめるよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	行きたい所を本人や家族から把握しており、馴染みの関係や各種サービスを活かしてふるさと訪問や墓参り等の機会をつくり支援している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	日常の手紙・暑中見舞い・年賀状等を書いていただいており、プライバシーに配慮しながら本人が読み書きしたり、電話を使用することを支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家庭的な雰囲気を大切に、宿泊しやすいようにベッドの貸し出しを行うなど気軽に訪問していただけるように工夫している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者が受ける身体的・精神的障害について全職員が正しく理解しており、必要に応じて専門職の助言を受けながら拘束しないための支援を常日頃から行っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	SECOMが入っている為、日中は鍵を掛けなくても良く、また、目の届かない場所でも察知できるようになっている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は昼夜通して全員の様子を常に見守れるように位置し、プライバシーに配慮しながらさりげなく観察できるようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状況に合わせて、注意が必要な物品は何かを職員全員で把握し、管理方法の確認や取り決めを行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリ・ハットを活かし、一人一人の状態から考えられるリスクや危険を検討し事故防止に努めており、事故発生時には再発防止策をその都度話し合い検討している。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	事業所独自のマニュアルに基づき、当理事長Dr、看護職員の指示・指導のもと全ての職員が応急手当に関して定期的に学ぶ機会を設け、緊急時に活かせる技術を身に付けていけるよう取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害時に昼夜を問わず確実な避難誘導が出来るように備え、職員、利用者と地域の人々の協力を得て、災害時に話し合いを行い支援の態勢を整えている。		運営推進会議において職員、利用者、地域の方々のみならず、消防職員を交えて災害時に対する協力体制に関する話し合いの場を持っていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	普段からの家族との関係作りを基盤にし、一人一人起こり得るリスクに対し話し合い、対応策を率直に話し合うようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	職員が一人一人の体調の変化や異常の早期発見に努め、日常的に早期対応に結びつけることができるように努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員・看護師を交え薬についてのミーティング・勉強会を行っており、副作用、用法、用量を理解し細心の注意を払っている。また、心身上の変化や課題が見られた場合は速やかにDr. に情報提供を行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	個々の便秘の原因を探り、食事、排泄、活動状態等を見直し、家族とも相談しながら自然排便を促すよう働きかけている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の歯磨き、イソジンの使用、義歯洗浄を行い、利用者の自立支援、声掛けを行いながら口腔内の清潔保持に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	一人一人にあわせて、また、その日の体調に合わせて主食をお粥にしたり、副食を食べやすく刻んだりとろみをつけて工夫をし、管理栄養士を中心に対応している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。(インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	当理事長林Dr.作成のマニュアルをもとに勉強会を行っており実行している。また、感染症の流行や対応策について日常的に情報が得られるよう努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	清潔・衛生の保持を保つための管理方法を取り決めており、場合によってはアルコール殺菌すると共に、食器は常時食洗機を用いて75℃の加熱を行っている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	利用者や家族等、地域の人たちの感想や意見を参考に、玄関周りに草花を季節毎に植え替える等工夫し、訪問しやすいよう心掛けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	五感刺激への配慮のうえで生活感や季節感のあるものを上手く活用しながら、安らぎ居心地良く過ごせるように工夫している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室で休む空間と、フロアで他の入居者と自由に団楽できる空間を設けている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた馴染みの物を置くなど本人や家族と相談しながら、その人らしく居心地良く過ごせるよう配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日全棟の窓を開け換気を行っており、入居者一人一人の状態や反応を見ながら、季節に応じてできるだけ自然環境に近い空調の管理に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	要所に手摺り、階段に滑り止めを設置しており、一人一人の身体機能の状態に合わせての危険防止や、作業療法士の指導をもとにスタッフ同士情報を共有し、自立した生活が行えるよう支援している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室の入り口には目線に合わせて名札をかけ迷わないように配慮し、トイレや浴室等もわかりやすく明示している。		
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	利用者と一緒に外周リの花壇に花を植えたり、草取りをしている。ベランダについても一緒に洗濯物を干したり日光浴をする場として活用している。		